

パシフィックボイス アジア最大級フェス主催

## 短編映画振興へ 映像配信注力

パシフィックボイスは、俳優の別所哲也さんがショートフィルム（短編映画）の普及を目的に設立した会社だ。アジア最大級の短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル」を実質的に主催する傍ら、グループ会社を通じ横浜市内で映画館を運営。普及活動と企業活動を巧みに両立させてきた。

「若手クリエイターの登竜門であり続けたい」。パシフィックボイスの高橋秀幸PRマネージャーは、ショートショートフィルムフェスティバルの理想像をそう表現する。

同映画祭は、パシフィックボイスが運営するショートショート実行委員会が1999年から主催してきた。2001年に欧米作品を審査対象にしたコンペティションが始まり、その3年後には日本を含むアジアの部門を追加。

同時に米アカデミー賞の公認映画祭となり、受賞への道が開かれた。アカデミー賞公認映画祭は、日本ではほかに1つしかないという。

審査対象となる作品は25分以内であることが要件で、「ジャパン部門」など地域別に設けられた3部門の優秀賞からグランプリを選出。ほかにも「銀光映像大賞」などがある。

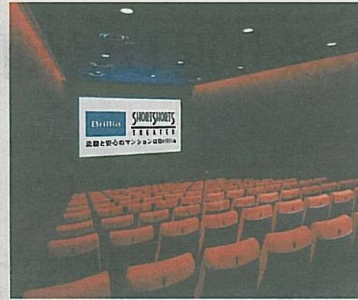
その知名度の高さは、毎年100以上の国と地域から4000作品以上が応募されていることでも分かる。12年にグランプリを受賞した平柳敦子監督が昨年、カンヌ国際映画祭のシネフォンダシオン部門で日本人初の2位を獲得するなど、多くの優秀な人材も輩出している。

08年には、横浜市西区にショートフィルム普及のための映画館もオープンさせた。128席を

備えた「アリア・ショートショート・シアター」だ。この映画館は、日本で唯一の短編専門映画館でもある。高橋マネージャーは「映画祭は年1回なのに対し、一年通してショートフィルムがみられ、補完的な存在になる」と運営メリットを強調する。

この映画館は、稼働率の低い時間帯に、1時間当たり5万4000円（平日）で貸し出している。プロボーズ目的で借りる人が多く、これまで100組を結婚に導いたという。

一方、同社がここにきて力を注いでいるのが映像配信だ。映画祭の出品作品は、上映の権利を得た会社を通じて、スポンサーのネスレ日本が運営するウェブサイト「ネスレミュージズ」上で配信。NTTドコモの動画配信サービス「dビデオ」でも



パシフィックボイスのグループ会社「アリア・ショートショート・シアター」が運営する短編専門の映画館「アリア・ショートショート・シアター」

横浜市西区

### ■会社概要

- ▷本社＝東京都渋谷区千駄ヶ谷4-12-8 SSUビル4階
- ▷設立＝1994年8月
- ▷資本金＝1000万円
- ▷従業員＝15人
- ▷事業内容＝映画祭や映画館の運営など

現在、1000以上の作品を視聴できる。

「dビデオはスマートフォンにも対応しているので通勤中に見てもらえる。映画祭や映画館の客層は30代女性が多いが、もっと若い人にも好きになってほしい」（高橋マネージャー）

別所さんは余分な部分がそぎ落とされ、「凝縮感」のあるショートフィルムをエスプレッソ

コーヒーにたとえるという。映画祭の初開催から17年目。ショートフィルムの「深い味わい」は着実に広まりつつある。（井田通人）